

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな) おがや	ちほ	[REDACTED]	
小ヶ谷千穂	印		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) おがや	ちほ	フェリス女学院大学文学部コミュニケーション学 科	
小ヶ谷千穂	印		
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
共生のフィールドワーク	FERa-171201-0	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：神奈川県内（川崎市・横浜市・藤沢市・相模原市）で、外国につながる子どもや、生活困難層の子どもたちのサポートやエンパワメントにかかわる活動をしている複数の団体が半期に渡って受講生が参与観察を行い、それぞれの現場での実践を通して「共生」概念を再検討した。半期の実習を通して学生たちの観察力や考察力が高まり、質的研究の特質について十分に体得することができた。受け入れ先団体の方々にも最終報告会に参加していただきフィードバックをいただいたことも、調査実習としてはきわめて有意義だった。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

神奈川県内の多文化共生の現場におけるフィールドワークから、「共生」社会の現実について考察する。

2. 調査の内容/概要：

外国につながる児童・生徒や生活困難層の児童・生徒のエンパワメントにかかわる団体（川崎市桜本地区・横浜市寿地区・藤沢市・相模原市）で各学生が参与観察を実施し「共生」の現実や課題を明らかにした。実習終了後に調査報告をまとめ、フィールド調査で得られた知見を調査対象者（受け入れ団体）に報告し、現状と今後の課題について共有した。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

外国につながる児童・生徒、生活困難層の児童・生徒、およびその支援者、保護者、近隣住民など。「共生」概念を検討するため、特に支援者や近隣住民も調査の対象とした。

4. 主な調査項目：

活動に参加する児童・生徒の国籍や年齢分布、滞日年数、言語状況や友人関係のネットワーク、団体の活動の推移、支援ネットワークのあり方、保護者の活動への関与の度合い、活動参加が児童・生徒、保護者、支援者、近隣住民それぞれに与えた効果と課題など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

受け入れ先団体（4か所）で各学生が週に1~2回、半期（約4か月）にわたる参与観察・フィールドワークを行った。合わせて、支援者へ半構造化インタビューも実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2017年10月~2018年1月。調査地は2. に記した通り。調査員は6名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：

調査員は学部1年生~3年生であったが、十分な参与観察・フィールドワーク・データを得られたと考える。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

フィールドワークによって得られた質的なデータの記述と分析。対象となった児童・生徒の態度や語りの変化を、周囲の支援者や保護者との関係から質的に分析することができた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

それぞれの現場での参与観察を通して、「共生」とは対等な関係で行為主体が向き合うことで実現され、それは子どもとの関係においてもそうであることが明らかになった。また、さまざまな背景を持つ子どもたちにとっての「居場所」の重要性が共通して明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2018年3月末に、各自の調査報告がまとめられており、受け入れ団体にも共有した。しかし、調査対象者のプライバシーを考慮して、報告書としての刊行は行わないこととした。

<記入上の注意点>

1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。